

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年02月04日

計画の名称	宇美町における快適な生活環境の整備											
計画の期間	令和02年度 ~ 令和04年度 (3年間)										重点配分対象の該当	
交付対象	宇美町											
計画の目標	下水道整備を実施することにより、生活環境の改善、公共用水域の水質安全を図り、衛生的で快適な暮らしを確保する。											
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	254	A	254	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (R2当初)	中間目標値	最終目標値 (R4末)
1	下水道処理人口普及率を88.1%(R2当初)から92.7%(R4末)に向上させる。 町民に対して公共下水道整備が普及した割合を下水道処理人口普及率を用いて指標化する。 下水道処理人口普及率(%) = (下水道を利用できる地域の人口(人)) / (行政人口(人))	88%	%	92%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												R02	R03	R04	R05	R06			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
下水道事業	A07-001	下水道	一般	宇美町	直接	宇美町	管渠(汚水)	新設	多々良川処理区汚水枝線整備	汚水枝線 L=2,008.6m	宇美町						250	-	
	A07-002	下水道	一般	宇美町	直接	宇美町	管渠(汚水)	新設	多々良川処理区汚水幹線整備	汚水幹線 L=82m	宇美町						0	-	
	A07-003	下水道	一般	宇美町	直接	宇美町	管渠(汚水)	-	効率的事業実施計画策定	下水道整備計画の再検討	宇美町						4	-	
												小計						254	
												合計						254	

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
令和2年度から令和4年度の結果について評価を行った。	令和6年12月
	公表の方法
	宇美町ホームページに掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	計画期間の整備事業の実施により2,759.9mの管渠整備を完了し、36.0haの供用開始を行った。これにより令和5年度末の普及人口は、34,245人となり行政人口に対する普及率は92.8%に達した。 評価指標の普及率は、目標値92.7%に対し、92.8%となった。 工事の施工に伴い、想定していた以上の転石が出現したことにより、施工能率が低下し、不測の日数を要したこと等もあり次年度に繰り越しとなったが、目標値を僅かながら上回り達成することができた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
<p>国の指針に基づきアクションプランを作成し、交付金の確保に努めているものの、町の財政状況から整備事業は減少し、普及拡大は遅延傾向にあるが、現在の事業計画区域整備率は、81.9%に達しており、令和7年度には事業計画区域を拡大し、さらなる普及促進を行う。</p> <p>また、計画期間の行政人口は、微減となっており、将来人口についても減少が予測されるため、投資効果を見据えた整備地域の選択が必要である。</p> <p>一方で、ストックマネジメント計画に基づき実施している施設の維持管理経費は、今後の増加が見込まれることから、持続的な事業運営を図るため財政マネジメントのさらなる強化が必要である。</p>	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	92%
	最終実績値	92%